

B：宮城県コース

岡部 千津子（1978・文）

2011年3月下旬、高速道路が開通するや否や高速バスを乗り継ぎ宮城に向かった。仙台駅まで辿り着いたものの風東北本線は不通のまま、仙台からは1日2本のバスを待つしかなかった。シートで覆われた仙台駅、バスを待つ長蛇の列…今どうなっているのか？という思いで参加した。今回この企画をしていただき感謝いたします。現地の校友と具体的なお話を伺えて良かった。また、参加者同士、年代や業種をこえて交流でき別れがたかった。

以下感想です。

1：事前プレゼンと基礎データの提供が必要。（正確な情報の提供をもとに現地を訪問したい。バスガイドさんに頼りすぎではないか？）

①宮城県の被害状況と現状（「復興」の到達点、問題点等の行政の資料等）の提供。

②立命館大学の取り組みの資料の提供

③大学或いは学問・学術分野での課題の情報提供が必要ではないか。

2：単に訪れ現地で消費することでの復興支援だけではなく、正確に現実を知り、課題を訴え続けることが復興への道ではないだろうか？（復興予算の使われ方に象徴されるように。）

3：現地はまだまだ復興への道は「おどけではない。」